

45. <雨水の利用>

今から約10年前、タイ国の首都バンコク市内に仕事で滞在したことがあります。ご存知のように、北緯15℃付近に位置するタイ国は雨季と乾季が分かれており、雨季には決まってスコールが来て、1時間から2時間猛烈な雨を降らし、街のあちらこちらで、道路冠水となり大渋滞が始まります。急いでいる時には車を降りて歩くこととなります。

バンコク市内の幹線道路には歩道に面して商店が軒を連ねており、十分ではありませんが庇（ひさし）を出し、その下に商品を陳列して商売を出している店が多いのです。スコールの時にはこの庇（ひさし）に逃げ込んで雨をやり過ぎます。

バンコク市内に滞在して数ヵ月後、市内を歩いていてある事に気がつきました。各店の庇（ひさし）には横樋（とい）と縦樋（とい）が無く、降った雨はそのまま歩道に落下させたり、ご丁寧に庇（ひさし）に多少の勾配を付けて、降った雨を数箇所に集め、細い筒を通して歩道に落している場合もありました。このため、雨は歩道の一部を集中して洗い、舗装を傷める結果になります。雨季も後半になると水溜りができ、歩き難い歩道に変わってしまいます。

このことをタイ人の友人に話すと、思いがけない返事が返ってきました。つまり家の庇（ひさし）に勾配を付け、雨を数箇所に集める構造にしているのは、降雨を瓶（かめ）に溜め生活用水として使うためです。降雨初期の水には屋根の汚を含むため、瓶（かめ）には溜めず流し、5分程度後に瓶（かめ）を置いて雨を溜めると言うのです。近年はバンコク市内も上水道が普及し、雨水を瓶に溜め使うことは、ほとんど見かけなくなりましたが、家の構造は昔のままなのです。

数ヵ月後、タイの地方に行った時に偶然にも瓶（かめ）に溜めた雨水を飲む機会がありました。衛生的に多少心配でしたが、思い切って口に含むと、まる

やかな味ので、なかなか美味な水でした。

さて、日本でも、渇水対策・浸水対策・合流改善の一環として、雨水利用を積極的に勧めている自治体が多くあります。東京両国の国技館は屋根で受け止めた雨を浄化し、トイレ用水等として利用しています。私の家でも5年前にFRP製の雨水タンク（200L）を購入・設置し、狭い庭の植木の散水用水として使っています。樋（とい）から雨水を雨水タンクに直接導く構造ですが、屋根の汚れを洗い流すため、降雨初期の雨はかなり汚れており、雨水タンクに流入させる手前でスポンジを用いて、ろ過を行っています。1月に1回程度はスポンジを洗う必要がありますが、溜め水はいたってきれいで、雨水タンクの密閉性が良いためかボウフラが湧くこともなく、重宝しています。

最近、東京周辺では地震の発生は多く、巨大地震の発生も懸念されています。巨大地震の際には水道管が被害を受け長期間断水することが想定されます。水道復旧までの間、飲料水以外の用途（トイレの流し水等）に雨水タンクに溜めた水が役立つのではと期待しています。

皆さんも、散水利用の水道代を節約する以外に災害時の緊急用水としての雨水の利用も考えてはどうでしょうか。

< 石井 宏和 >

※No. 51号(2006/2/7)に掲載